



焼津・花沢の里と鞍掛峠ウォーク

2025.02.23 健脚コース:11km 普通コース:9km ゆったりコース:6km+α

コース

往路 富士宮駅南口 == 新富士IC == 清水JCT == 日本坂PA(WC) == 焼津IC
8:00 8:50~9:00

== 焼津駅北口
9:10~15

ウォーク 焼津駅北口(スタート)・・・焼津北公園(体操)・・・天皇神社・・・日本坂PA(WC)・・・旗掛石
9:15 9:20~30 9:40~45 10:20~30 10:35~40
・・・ゴロタの石道・・・花沢の里WC(WC)・・・ビジターセンター(昼食・WC)・・・法華寺
11:20~30 11:40~12:20 12:30~40
・・・鞍掛峠・・・花沢の里WC(WC)・・・花沢の里観光P(ゴール)
13:30~40 14:30~40 14:45

*コース時間は健脚コース

復路 観光P == 焼津さかなセンター(WC) == 焼津IC == 清水JCT == 新富士IC
14:45 15:00~30

== 富士宮駅南口
16:20

* 健脚コース: 鞍掛峠(標高285m)往復(やや健脚向き)

* 普通コース: 法華寺から鞍掛峠に行かず緩やかなコースを花沢の里まで歩く。

* ゆったりコース: 花沢の里を自由散策する。

参加者の皆様へ

- ・ 無断で単独行動をとらないようにしてください。
- ・ 主催者は、歩行中の事故について傷害保険に加入している他は応急措置以外の責任は負いません。
- ・ スタート前には必ずトイレを済ませてください。
- ・ 原則として右側通行を遵守し、2列以内で歩きましょう。
- ・ 一般道を横切の場合は、役員の指示に従ってください。
- ・ 体調が悪くなったら遠慮せずに役員に連絡願います。

緊急時連絡

里見 祥一 090-6767-2474
蜂須賀守政 090-3484-5226

コースの概要

焼津駅北口でバスを降り焼津北公園で体操をしてウォークスタート。後醍醐天皇が祭神である天皇神社に寄って瀬戸川の土手を進みます。瀬戸川に架かる橋を渡り、サッポロビールの工場の横を過ぎたら新幹線のガード下、国道150号線のガードをくぐってまっすぐ進み、東名の日本坂PAでトイレ休憩です。休憩後は旗掛石を見てゴロタの石道経由で東名に沿って進み、日本坂トンネルが正面に見えるあたりで左折してガードをくぐると、花沢の里に続く道に出ます。川沿いの道を500mほど行くと、花沢の里入り口に到着。トイレ休憩後、集落に進みビジターセンターで昼食です。トイレは男女各1つずつなので午後のスタートまでに効率よく済ませてください。

午後のスタート時に3つのコースに分かれます。コースの内容は左上のコース欄に書かれています。健脚コースは長い距離ではありませんが、階段が続く登山道です。下りは緩やかなスロープの道となります。足に不安のある方は普通コースかゆったりコースを選択して下さい。いずれのコースもゴールは花沢の里観光駐車場です。バスに乗る前にトイレは済ませてください。帰路ではおなじみの焼津さかなセンターに寄りますのでショッピングをお楽しみください。

天皇神社

境内の由緒碑によると、祭神は後醍醐天皇。文政5年(1822年、江戸時代後期)9月16日に創建したとの棟札が残るが、それ以前からこの地の産土神として祀られてきたものと推測される。現在は蔵王神社、津島神社、稲荷神社が合祀されているとのこと。拝殿の奥に覆屋に守られた本殿があり、そこに後醍醐天皇と蔵王権現が祀られる。

旗掛石

徳川家康が天下を取ってから、しばしばこのあたりで鷹狩りに来て家臣の原川新三郎の家に立ち寄った際、旗や鞍を掛けたことから名が付いた。また、石脇という地名もこの石に由来している。

花沢の里

花沢の里は、万葉集に詠まれた「やきつべの小径」沿いにある、約30軒の江戸時代以来の山村集落である。旧東海道といわれる街道沿いに石垣と板張りの歴史を感じられる建物が連なり、川や山林など周りの豊かな自然と相まった独自の歴史的景観が楽しめる。平成26年には静岡県で初めて国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された。沿道には奈良時代創建と伝わる古刹・法華寺や水車小屋、無人販売、古民家カフェなどもある。

オシャモツツアン

「花沢の里」の道を日本坂峠に向かって上っていく途中に、「オシャモツツアン」と呼ばれる、岩が露出した場所がある。単なるゴツゴツした岩なのだが、祈ると歯痛に霊験あらたかという。

次回申込(朝・集合場所で) 松崎・三浦歩道と

なまこ壁ウォーク

☆期日 3月23日(日)
☆集合 富士宮駅南口 7:00
☆参加費 5,000円
☆切 3月17日(月)

法華寺

738年(天平10年)に創建されたと伝わる歴史のある寺院。焼津市内唯一の天台宗寺院として栄えたが、1570年(永禄13年)におきた武田信玄の花沢城攻略戦によって焼失してしまった。688年から1704年に再建され、その記録が1724年(享保9年)に住職豪栄によって「法華寺建立記」に記されている。そこから何回かの修繕を繰り返し、最近では2019年から2021年に、雨風による痛みが激しかった本堂が100年ぶりに修理されている。昔、高草山の隣村に住むひとりの女性が母乳の出が悪く悩んでおり、毎日神社の願掛けをしてあるきましたが効果がない。そんなとき法華寺の前を通ると大きなシダレイチョウの木(1983年8月の台風で倒壊)があり、多くの枝葉が乳のように垂れ下がっていた。そこで祈願したところ幹から観音様が現れ、乳の出がよくなったとのこと。このことから「乳観音」とも呼ばれ、子宝祈願や妊婦の信仰を集めている。また、「焼津七福神」の1つで、水と音楽の神様の「弁財尊天」も祀られ豊作や芸能・学問分野のご利益があると言われている。

